

【第1回 オンラインカンファレンス 議事録】

このたび、2021年シーズンについてのクラブ、チーム、バンドのビジョン、展望について各部門スタッフに、経営陣であるGM（ゼネラルマネージャー）の中村ロビンソンGMとチームの監督である花巻監督、クラブ責任者兼リーダーの藤咲結衣を加えてカンファレンスを実施いたしました。例年ですと4月開幕に合わせシーズン開幕前の3月にカンファレンスを開催となりますが今シーズンは立ち上げの年ということと引き続き現在の新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みWEBのミーティングツールを使用し「オンライン」という形で実施したため議事録の作成も若干遅れておりました。何卒よろしくお願ひします。

■1 クラブ設立の目的、ビジョンについて

「まず、なぜ既存のバンドを発展させてクラブ化、チーム化を実行したのか。最初の根本的な部分になるが一番大切な部分でもあるので説明をお願いします。

藤咲結衣(以下、藤咲):「改めまして2021年シーズンもよろしくお願ひいたします。元々、チームみたいな形式にして、そういうスタイルのバンドが広まって10チームくらい集まってリーグを形成し、バトル形式のライブとかイベントを年間通してやっていったら新しい音楽エンターテイメントを作れるな。というビジョンを持っていました。ただそれと自分のバンドは別物で考えていました。コロナの影響で昨年このバンドの活動の自粛をまっさきに判断したのは自分でした。色々な意見はありましたが。それで改めて自分たちのバンドと向き合い考える時間を得られたので、そのスタイルを自分たちに取り入れられないかということから考えていきました。中村GMとはその頃から相談し、アドバイスを受けながら基本的には自分がアイデアをどんどん育てていきました」

中村ロビンソンGM(以下、中村):「私は過去にスポーツチームの運営、現場でも監督として指導もしてきたのですが音楽にチームという発想はまったくなくて。藤咲の相談を受けていくうちに熱い想いに答えたい、是非形にして実現出来たら面白いなというのを感じました。私自身が関西在住ですが今日みたいにオンラインで全国どこにいてもバンドの活動が出来るわけです。これはメンバー、リスナーにも言えることで、オンラインで出来ることの幅は無敵大だなという話をした記憶があります」

藤咲:「最初はチームといってもそこまで本格的なビジョンではなかったんですよ。しかし2度の緊急事態宣言で音楽活動を足止めされた状態になり、当初心機一転としてスタートしたばかりのONE MORE Purplも最初から活動出来ず。そしてこの厳しい世の中の情勢はかなり長く続くという想定をせざる得ない状況になり、これは今後普通のバンドスタイルで勝負するには困難だなと痛感していた時期でした。そしてその打開策となる秘策がこの

クラブ組織型のバンドチーム計画の実行です。自分たちにとってもラストチャンス of 想いもありこの前人未到の計画に踏み切ることになりました。そしてやるからには他のバンドが絶対に真似できない唯一無二なスタイルに振り切る必要があると」

—去年はあくまでそのチームを作るための準備期間だったということですね。

藤咲：「はい。やっぱり他のバンドの敷いた線路の上を歩いていく事が大嫌いというのは昔から変わらないんですよ。特にチーム化してこだわっているのは【今見なかったら次同じスタイルは見れないバンド】という点です。同じようなライブを何度も何度もやっていてはリスナーも飽きますし、次回のライブ行けばいいや。と今回のライブの価値が上がりません。野球とかそうじゃないですか？〇〇選手が先発した試合だったらいけばよかった・・・でももうその選手は見れなくて後悔したり。セットリストだけ変化しているのではなく演者自体も変化していくスタイルこそチーム化の最大の特徴だと考えています。2021年シーズンのメンバーと2022年シーズンのメンバーも変わると思います。例えば2022年シーズンにリリースする作品が【吹奏楽】をフューチャーしたテーマだとします。そうしたらそれを表現するためのパートが複数必要になる。アルトサクソなりトロンボーンなり。そうしたことも考えて先を見据えてあらゆるアーティストに交渉していくのも大切な仕事となります。強化部を設置したのもそうした意味が強いからです」

強化部・DJ ZZ (以下 ZZ)：「今シーズンよりプレーヤーとしてメンバーに残りつつもバンドの裏方も担当しています ZZ です。かつてボーカルとしてこのバンドを長く支え、今も DJ という役割で現役メンバーなんだけど、強化部については現場を最大限に理解し、他のバンドやソロ活動のアーティストに対しても常にアンテナを向けられる人材。ということで自分が強化部スタッフをまとめる役職についています。よろしくお願いします」

藤咲：「今回強化部スタッフや強化部長の ZZ、中村 GM だけでなく花巻監督も色んなアーティストへプレゼンを重ね、新加入メンバー獲得に大きな結果を出してくれました。藤咲自身もバンドの界限を超えて色んな演者さんをオファーして、面白いパートだったりバンドの武器になるパートだったり獲得が出来ました。しかし今回これだけ色んなメンバーを獲得出来たのは強化部や監督のおかげです」

花巻監督 (以下、花巻)：「新監督に就任した花巻です。皆様よろしくお願いします。チーム化のお話を聞いて応援したいなと思っていましたが、関係者として呼んでもらえたのは嬉しかったです。バンドと言えば定番の楽器が揃っているイメージだったけど、グラスハーブというワイングラスを指で音を出す専門奏者のメンバーがいたり、普通じゃないバンドを組もうとする情熱は感じていました。まだまだ音楽の世界においての実績はありませんが人脈をいかして新加入メンバーを獲得出来てよかったです」

-監督の思い描くビジョンとは。

花巻「やはりこのプロジェクトが成功することですね。この成功例が今後の音楽界に大きな影響を与えたら携わる者として最高の結果になります。音楽的な指示や戦略を組める監督のほうが実際は良いという気がします、立ち上げ序盤は戦略よりもとにかくメンバーみんなが新加入でチームワークが大切になるということを知り、少しでも力になれると思って引き受けたわけです」

藤咲：「チームワークの強化という観点で花巻氏には大きな期待を寄せています。」

-FC はフランチャイズでもサッカーチームでもなくフューチャーミュージッククラブ（未来の音楽を作り出すクラブチーム）を意味しています。となっていますがクラブの将来を見据えたビジョンとは。

中村「その名の通り未来の音楽のあり方を変えるくらい我々は振り切った戦略を元に斬新なスタイルにこだわり続けます。異業界、異業種の自分が来たからにはそこは強い気持ちがあるので。既存のバンドのスタイルとは別物にしていきます」

藤咲：「将来的には音楽をやりたい子どもたちの夢であったり目標になりたい。という想いがFCに込められています。地域に根ざして活動していき自分たちが結果を出していけば、楽器に興味のある学生、そして子どもたちも【ワンと鳴いてニャン！F.C.で音楽をやりたい】という夢が出てくるかもしれない。普通のバンドだと憧れのバンドに入り演奏するなんて夢物語だけどこのチームではそれが実現できますから。これもサッカーチームなどと同じですね。【あの強い〇〇というチームに入って活躍するのが夢です】と子どもたちは卒業文集に書くじゃないですか。トップチーム加入に向けて、夢を持った若者達を集めて優秀なアーティストを講師として招き、未来の有望アーティストを育成するアカデミー設立のプランまで考えています。そのアカデミーで育ったアーティストが他のバンドで活躍しても嬉しいし、自分たちのクラブのトップチームの新加入メンバーとして戦力になっていけば他所からの加入だけではなく自前で育成したメンバーということで一層、このクラブ組織の存在価値が高まります。ただバンドが変わったことをやって目立って結果を出したい。というだけでなく地域の子どもたちが【野球でもサッカーでもなく、バンドのメンバーになるのが夢だ！】という子がたくさん出てきてくれるようになるためにこのクラブは存在していきたいんです。それが音楽業界にとってもプラスになるかもしれないし、何よりリスナーにとって有望なアーティストが増えることは素晴らしいことですから」

■2 クラブの特徴について

ークラブの特徴やバンド名の由来について

中村：「由来は WEB サイトのプロフィールを御覧ください。特徴はやはりメンバーが 20 名前後いる中で作品やライブごとに 4 人から 11 人を選抜するスタイル。メンバーも選ばれるために自分をアピールしないと勝ち残れません。演奏技術だけじゃなくまずは人間性も大事になってくる。力があってもチームというスタイルなわけですからチームの足並みを崩すようなメンバーがいれば容赦なく他のバンドに移籍させるか解任します」

花巻：「もしかしたら乃木坂 46 さんのようなアイドルグループにちょっと似ている環境かもしれないね。センターというポジションを巡ってみんなハイレベルで戦っているから」

ー他に特徴はありますか？例えばライブとか。

ZZ：「チーム感を出すための演出はたくさん用意している。藤咲からはやりすぎないレベルでと言われているんだけど、まさにそのとおりでありやりすぎてもイロモノというお笑いみたいになってしまうのでそれは避けたい。あくまで戦うチームというスタイルを強調するため。ライブは前半・後半 45 分というのも昔からやっていたことだし、ハーフタイム、アディショナルタイム（アンコール）などもやっていることは変わらないよね。以前から取り入れていることだな」

花巻：「自分もサッカーを通してリーダーと出会っているのでこのスタイルは面白いと感じているよ。VAR 導入やレフェリーによるイエローカードや退場などあっても面白そう。リモート参加メンバーの積極参加やリスナー参加は今の時代にあっていてすごく画期的」

藤咲：「演奏ミスったらイエローカード。2 枚でレッドカードで退場。でも演奏メンバーいなくなったらライブにならないですよ（笑）やりすぎるとお笑いになっちゃうっていうのはそういうところですね。麻婆豆腐の山椒のようなスパイス感がちょうど良いかと」

ZZ：「VAR でミスをチェックなんてやったら演奏しているプレーヤーからしたらたまったもんじゃないけど普通のバンドより厳しい状況になるから演奏力は相当高まりそうだ」

中村：「他のバンドはボーカルにおんぶにだっこなんですよ。ボーカルがいなくなったらそのバンドは終わり。ボーカルが気持ちよくやるために他のメンバーが顔色伺ってやっているというバンドをよく見ます。私はもっと演奏している楽器プレーヤーを尊重したいんですよ。野球の捕手だってレギュラーが結果を出さなければ控えの捕手にポジション取られます。ボーカルも安泰のポジションにはしません。頑張って結果を出すための努力をしているメンバーがたくさんいる状況です。また、アルバム作品毎にメインを務めるボーカルは交代してもいいのでは？とすら私は思っていますから。他のバンドじゃ出来ない事です」

■3 クラブの取り組みについて

-チームの1年の動きを具体的に教えてもらいたい。

運営管理部スタッフ（以下、運営ス）：「運営管理部スタッフです。よろしくお願いします。チームとしては4月に開幕し、翌年3月までが1年のスパンとなります。2021年シーズンであれば、2021年4月開幕で2022年3月の頭がシーズンラスト。約1ヶ月のオフの間に来シーズンメンバーの更新、新加入、そして新年度のビジョンの話し合いやこのようなカンファレンスなどを経てまた新シーズンが開幕していきます。体を消耗するスポーツチームと違い合宿期間が短いのでシーズンオフはかなり短いです。1年毎にテーマを設けますがアルバム作品との兼ね合いもあるので・・・夏合宿などもコロナ禍でなければ開催するのですが・・・」

-会場におけるライブ開催の見通し、コロナウイルス対策について

運営ス：「正直他アーティストさんはそのへんの基準はかなり甘いなという印象がございませぬ。未知なるウイルスで感染者をメンバーやスタッフ、そしてリスナーから出してはいけません。その想いが強いので当面ライブ会場に観客を呼んでのライブは不可能と判断します」

-メンバーのリハの取り組みについて

運営ス：「リハはリモートだけでは出来ないのが事実です。通常そんなに大きくないスタジオでリハーサルを行います。現在はゲネプロ用の広いスタジオや、公共施設のホールレベルの広さのある環境でなおかつ30分に1度の換気、メンバー全員マスクを2枚重ねてさらにフェイスシールド、ボカルのみマウスシールドを使用するなどの対策を講じてリハーサルを開催しています。またリハーサル5日前、3日前、前日、当日の検温とアンケートの提出を義務付けており、不調者の参加が出来ないようなシステムとなっています」

藤咲：「スタジオ内でのディスカッションの機会は減らしています。練習前に ZOOM や LINE を使ったオンラインのミーティングで練習でやるべきポイントや課題を事前に自宅でディスカッションすることでメンバーがリハーサルポイントを頭に入れておくことでスムーズに演奏に取りかかれる「プレリハ・カンファレンス」を導入しました。リハーサル後も、リーダーの私が「リハ・アフターレポート」を制作しメンバーで共有することで、スタジオ滞在時間やディスカッションの時間をかなり省いています。他のバンドの SNS を見ていると信じられないことに、ライブやリハの打ち上げの飲み会、食事会を当たり前のようにやっていて大騒ぎしています。メンバー数も多くなり、あまり個人のプライベートは縛りたくはないのですがこうした姿勢を続けるメンバーだとライブに起用しにくくなりますね。自分は大丈夫。ではチームスタイルでは通用しません。何かあったらチームのメンバー全員に迷惑がかかってくる。メンバーの家族や知人にまでも影響を及ぼします」

中村：「そのあたりの意識が低いメンバーはチームの和を乱すことになるんですよ。人によって考え方に差があるのは仕方ないんだけど、某プロ野球チームで最近解雇された選手なんかまさに自分の事だけしか考えてないからチームに迷惑をかける結果になってしまった」

花巻：「そのあたりのメンバーへの指導はちゃんとしていかないといけません」

-SNS 関連でもメンバー個々の制約が必要な時代ですね。SNS 関連についてはどういう取り組みを行い管理をしているのですか。

PR 推進部スタッフ（以下、PR ス）：「はじめまして。PR 推進部では主にバンドの PR を行い SNS 強化に特化して運営を進めています。よろしくお祈いします。まず Purple Fizz 時代はメンバー全員がバンド公認の各 SNS ツールを持っていたようですが、これは廃止しました。昨今、芸能人やアーティスト、スポーツ選手に向けた誹謗中傷による自殺という痛ましい事件が増加している背景を鑑み、個人のツイッターなどは廃止を提案しました。これだけの人数が揃っていて、各発言の管理もバンドとしては厳しい現状です。SNS 発信をやりたくない者、やりたい者、バンドの公認ではなくプライベートでのみやりたい者、様々な意見があります。なので原則、バンド公認のツイッターはバンドのアカウントとゆるキャラの 2 つだけとし、個人でどうしてもアカウントを持ちたいメンバーは自己責任のもと自己管理でやるという仕組みにしております。ですので個人でアカウントを持つメンバーは発言の責任は個人にあるということを理解した上で使用しています」

-各メンバーの個性をリスナーが知ることは重要なポイントですね。

PR ス：「そこは YouTube やインスタライブ、LINE ライブといったツールで積極的に各メンバーの出演機会を増やそうと企画しています。メンバーの素顔や個性を PR していくことはこの部門の一番の責任であり役割です。今日は不在ですが広報部スタッフ関係者と手を取り進めていきます。広報部と目的は似ていますが広報部はマッチデープログラムの配信や、イベントの企画、メンバーの現状に触れてブログなどで発信していきます。私達 PR 推進部は「メディア発信による推進」をメインとしていて SNS を筆頭にウェブ PR の強化を目的としています。動画編集スタッフ数名が軸となっています。YouTuber 的なビジョン展開も必要な時代ですので様々なアイデアをメンバーや GM と意見交換しています。誹謗中傷に対する厳しい対処に関しても私達の部門で管理をしていきます」

-ゆるキャラ誕生に関して。

PR ス：「これは広報部の活動になっているのですが、広報活動のメイン的な部分です。ゆるキャラを活用して地域活動に導入できればと思っています。現在赤字経営のクラブなのですぐにぬいぐるみの発注にまでは手がまわりません。将来的にはクラウドファンディングなどでリアルなゆるキャラが誕生できるように動きたいです」

■4 チーム強化と編成について

-チーム編成のあり方はどのようなスタイルとなりますか。

中村：「変幻自在なチーム編成がウリですので、20名近くのメンバーをどうポジショニングしていくのかはリーダーや監督の腕の見せ所になります」

運営ス：「クラブ・チーム内に複数のバンドが存在し、並行活動していく計画となっているのでわかりやすく説明しておきます。まず【トップチーム「ONE MORE Purple」】ですが、これはクラブのメインバンドで前身バンド「Purple Fizz」を引き継ぐ多彩な編成が武器のバンドとなります。男性ボーカルの楽曲メインですが女性ボーカル曲もありますし、ポジションが一番変動するのがこのバンドだと考えています。クラブの顔になります。続いて【セカンドチーム「mille-feui-viola」】は読み方は【ミルフィ・ヴィオラ】です。女性ボーカルに特化し音楽性も、トップチームとは異なるビジョンで並行活動していくバンド。となっています。女性ボーカルももしかしたら数名になるかもしれませんし、複数ポジションを可能とするメンバーが活躍をする場になりそうです。女性グループではなくあくまで女性ボーカルということですので楽器隊は男性も入ります。【プレミアチーム「ワンと鳴いてニャン! F.C.プレミア」】については、選抜された最高峰メンバー達によって制作されるレア作品をリリースするバンド。となっていて現時点ではライブは行わなそうです。ただ色々面白いプランもあるので期待していて欲しい編成です」

-チーム強化のため行われたメンバー補強のポイントについて

ZZ：「強化部観点でひとつ。本来はリモートドラムを採用しているんだけどやはり会場でお客様の前で演奏となると迫力のあるステージドラムメンバーは必須になるんだ。作品を主戦場とするリモートドラムと会場ライブを主戦場とするステージドラムがいるわけですが、この状況下ではオンラインライブをやっていくのが精一杯な年になる。2021年シーズンは。なのでステージドラムをメインポジションとするメンバーの新加入獲得は見送り、ずっと出番を待っていた KAZUNARI というドラムメンバーも他のバンドの活動をしてくれと一度チームから離れてもらっています。レンタル移籍という形なので状況が変われば彼は戻そうと考えている。」

藤咲：「新加入の境 璃乃メンバーには期待しています。ボーカルがメインポジションですが、ドラム、ギターも担当できるのでトップチーム、セカンドチーム共にオールラウンダーとして活躍出来そうで、楽しみな存在です。」

ZZ：「このメンバーは藤咲自らオファーを続けていて見事加入を決めてくれたので、まだ若いので長い期間で大きく成長して欲しいよね」

藤咲：「歌声が素敵ですのでセカンドチームのミルフィビオラでの活躍も期待しています」

ZZ:「PF 時代を知るメンバーも残ったし、苦殺やΣ（シグマ）など過去メンバーの復帰加入は大きい。強化部としてはさらに補強を考えている」

花巻:「ヴァイオリンの富山芽郁メンバーとフルートの恵梨崎ソラは今までのバンド編成に変化をつけるポジションです。2人ともロックバンドの経験はないので時間をかけてチームにフィットしてくれば」

中村:「リモートボーカルの momo と seto はどうなの？制作中心のプレミアで期待しているみたいだが」

藤咲:「元々は花巻監督がピックアップしていたメンバーです。その後自分が交渉して加入となりました。実力は最高峰のボーカリストになります。バンドや自分達メンバーが思い描くビジョンとはどうやら大きな相違がある印象なので、フィットするには少し時間はかかるかなと。本当はトップチームでの即戦力として期待をしていたんですが、トップチームのボーカルは誰がやってもチームの顔になってくる。何度も言うようにポテンシャルは高いのでじっくりと焦らず勝負出来る曲で起用するなりしていきたいと考えています」

中村:「いわゆる大物選手獲得だね。期待通りの働きが出来ればいいんだけど・・・でも他のメンバーだって実績は負けていないし、実績のないボーカルだって実力は紙一重。あぐらかいているとポジションは簡単に奪われるし GM の私の方針に合わないようだと言っているんじゃないの」

ZZ:「強化部はメンバーの教育の役割もあり担当スタッフも在籍しているので。ただリモートメンバーで直接会う機会はかなり少ないのがネック。リモートメンバー採用は自分や GM は反対派だったけども藤咲がやってみたい、成功例を作りたいと言うからチャレンジしてみたんだよね」

藤咲:「そうだね。これがうまくいけば今後も遠方在住者でも首都圏のバンドで活躍できるという希望も生まれるしなんとか成功させたいミッション。彼らにはレベルの高い楽曲や映像作品を用意し、彼らの実力にふさわしい場を提供しなければいけない」

花巻:「かと言って特別扱いはダメでしょう。プレミアメンバーにふさわしいかどうかはちゃんと結果を出してくれないと。やりたいことをやるだけではチームとしては機能しませんよ。チームのために何が出来るか、そこをちゃんと考えられるメンバーが長く活躍するのでは、と思います」

運営ス:「異例なのは葵アリスメンバーですかね。(Ukulele . Cabasa (打楽器) .MC) です。トーク力は他業種での経験が多く本番にも強いです。YouTube などの動画作品での司会なども可能かもしれないです。打楽器参加もこのバンドにはアクセントになりそうです。」

中村：「レンタル加入だね。早速開幕戦から登場してくれていて来年完全移籍での獲得を狙えるような活躍を見せてくれそうで密かに期待をしている選手です。」

ZZ：「開幕戦でメインボーカルを任されたタニグチは過去このバンドでドラムで1年参加していたメンバーで、他バンドを経て成長して戻ってきたんだよね」

花巻：「開幕から大役を任せただけ、まだまだ伸びるだろうし経験値が少ないから将来性に期待をしたいボーカリストです。CLOVER選手はまだ適所を探っている感じに聞こえました」

藤咲：「頼りなかったメンバーが成長していく姿を見るのはこちらとしても嬉しいです」

-リリース計画やライブの計画はどうなっていますか？

藤咲：「当然積極的にやっていくのでもう少しだけお待ちください。リリースも去年はコロナでほぼ1年の時間を失っているのもう、毎月出すくらいの勢いは必要です。作品があって初めて勝負の舞台に立てるといえるか、スタート地点にたどり着くのでそこからがこのクラブの勝負が始まるイメージです。ライブもオンラインになりますが、会場では出来ないことを実現化させて遠方のリスナーさんをたくさん新たに迎え入れたいです。普通の事を当たり前に行っている守りの運営ではこれからのバンドは勝負が出来ないと考えているのでリスナーの方々もコロナ禍という厳しい情勢が続きますが、私達バンドメンバーやスタッフが出来る限りの発想力と行動力を武器に新たな面白さ、音楽の楽しさや素晴らしさをオンラインで届けていきますので今シーズンのサポートをよろしくお願いします」

-事務所などの所属はどういう位置づけにあるのか

中村：「これだけの数のメンバー、スタッフを揃えたビックチームが事務所に無所属でここまでやっているんだから誇れることです」

藤咲：「自前で育てたスタッフたちが味方になってくれているのが大きいです。事務所的な運営組織を運営していた経験は実はあるんですが、自分としてはこのクラブのことだけ考えていきたいという思いが強いです。携わるメンバーやスタッフが将来的に音楽活動で幸せになってほしいですね。ここを卒業していったメンバーのことも出来る限りOBとしてサポートもしていきたいです」

花巻：「スタジアムやスタッフはJ1レベルのクオリティを揃えている感覚です。しかも事務所など所属せずすべてを自分たちの手で運営しているんです。これは他のバンドから見たら羨ましいだろうなあと思うよ」

中村：「将来的にビッククラブに成長させるにあたりたくさんのスポンサーなどは必要になるからそうした交渉はどんどんやっていこうと考えている。事務所の所属じゃなくても戦えると思うけどバンドのために必要であれば優良な事務所をコーディネートしたい」

■5 第1章のテーマについて

-昨年時点のテーマとは変わったと思いますがその背景の説明を

藤咲：「昨年時点では第1章は【SNOWBELL】というテーマを発表していました。しかし昨年から状況はやはり変わっています。コロナのせいです。」

ZZ：「そういう曲名の作品を昨年リリースしていたよね」

花巻：「あれは結構よかったなあ」

藤咲：「まあ悔しい想いを一つ残しておきたかったんですよ。1年何も動けない悔しさを忘れないためにも。それで作品の優先順位なども再度考える日々。テーマも若干あわなくなりました、SNOWBELLが。このテーマはその次にいくべきで今回はPF時代を考えれば長いトンネルを抜けた末の再出発地点になるんですね。」

-コロナ禍はバンドのスケジュールやビジョンを大きく変えてしまった。

藤咲：「そうです。でもその変化はこうした事態がなかったら起きていなかったかもしれないですし、今こうして新たなビジョンが見えてきたのはプラスに考えます。第1章のテーマは【FACARD】読み方はファサードになります。意味などは作品を通して伝えていけたらいいなと考えているのでリリースを待っていていただけたら嬉しいです」

花巻：「最初が肝心。第1章からしっかりとやっていかないといけないと思っているのでまずはクラブが早くチームとしてまとまっていけるように頑張りたいです。リスナー、サポーターの皆様の温かい応援よろしくをお願いします」